

米政府「嫌がらせには中国当局関与」

5月10日 8時42分



中国からアメリカに渡った盲目の人権活動家、陳光誠氏の親族に対する嫌がらせがエスカレートしているとされる問題について、アメリカ政府は中国当局が関与しているという認識を示し、ケリー国務長官が中国側に書簡を送って懸念を伝えたことを明らかにしました。

中国当局による強制的な妊娠中絶の実態を告発したことで知られる盲目の人権活動家、陳光誠氏は、去年、軟禁されていた山東省の自宅を脱出しアメリカに渡りましたが、陳氏の兄はこれ以降、中国に残る親族への嫌がらせがエスカレートし、9日もみずからが自宅近くで暴行を受けたと証言しています。

これについて、アメリカ国務省のベントレル報道部長は、9日、「陳光誠氏の親族が嫌がらせを受け、最近、兄が暴行を受けたという報道に深く懸念している」と述べました。

そして、嫌がらせには中国当局が関与しているという認識を示し、不当な圧力をかけるのをやめるよう求めました。

そのうえでベントレル報道部長は、ケリー国務長官が中国政府に書簡を送り、アメリカのこうした懸念を伝えたことを明らかにしました。

アメリカ政府はこの問題を重く受け止めて、引き続き中国側に改善を求めていく方針を示しており、今後、米中間で摩擦が強まる可能性も指摘されています。